

平成 30 年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

私たちの税金

宇陀市立榛原中学校 三年 古田 音愛

いよいよ消費税が 10%になる日が近づいてきました。まだ中学生の私たちにとって、一番身近な税金であり、また自分自身が直接支払う税金が消費税です。私は、産まれた時から消費税なるものがあったので、自分で買い物ができる年齢になった時から、仕組みや詳しいシステムはわからなくとも買いたい物には、その価格の他に税金がかかることは、ごく当たりまえのことでした。しかし、両親は消費税がなかった時代も知っているので、少し消費税に対する考えには、私たち世代とは温度差があるようにも思います。たしかに、消費税だけでなく、いろいろな税金が少しずつではありますが負担額が上がっていくので日々の生活にだって影響が出てくることはあります。私たち国民が安心して生活していく上で必要な社会保障を維持していくためには増税もやむをえないと思います。これは、納得しなければいけない増税の大義名分です。

だから、一世帯一世帯が少々生活が苦しくなってもみんなの少しの痛みでこらえて、国全体の今を将来を守っていこうと理解しなければなりません。

私たち中学生の教育費も公費で支給されています。来年からは高校生になりますが、高校生の大部分の人たちが続けて教育費は公費が負担してくれることになっています。そうして教育を受けれることに感謝もしなければいけないのでは、と今回初めて気が付きました。そして、教育を受けた私たちが、社会人になり今度は一人前の納税者となり国を支えていくのです。とてもわかりやすいシステムです。ただシステムを維持していくには、あまりにも厳しい少子高齢化という問題があります。約 30 年後には、高齢者一人を支える働き手世代が一・三人になってしまうそうです。生活の質が上がり、文明が発達し、医療の技術は格段に上がり助かる命が大幅に増えたことは喜ばしいことですが、そのために平均寿命が長くなり高齢化が進んでいることもまた事実です。そうすると皮肉なことに社会保障である公的サービスの財源を圧迫することになるのです。ならば一刻も早く少子化を止めなければ、将来の働き手も増やさなければと思うのですが、これもまた簡単な問題ではありません。少しずつ就職率も改善傾向にあるそうですが、まだまだ十分ではありません。昔のような年功序列や生涯雇用などほぼ破たんしてしまっている現在、働き手に厳しいのです。よく言われる卵が先かにわとりが先かの例えを思い出しますが、何から手をつけて改善していったら良いのでしょうか。

正直、今の私には思いつきもしないので、今は大人に任せて、自分たちが今できること、しなければいけないことを一所懸命にするしかないのだと思います。私たちの税金はまわりまわって私たちの元へとかえってきます。まずは、志望校に合格できるよう教育を受けれる事に感謝し勉強を頑張ろうと思います。